

1) 甲南大学 知能情報学部

2) 経済学部

3) 理工学部

・ 体育会柔道部

BACKGROUND

1800年代、Edward Barton-Wrightは日本で柔術を学び、谷幸雄ら日本人柔道家をイギリスに招き柔道を紹介した。



騎士道における
「マナー・アンド・エチケット」
は武士道における道徳的行動の一つ



柔道は1900年代～1960年代あたりまでイギリスの上流階級に普及

柔道の根底にある武士道は、イギリスの英国紳士教育である騎士道に通じる

このような背景からイギリスでは、柔道は上流階級の教養の一つとして、特に「礼」を重んじながら普及している。

PURPOSE

イギリスで柔道が紹介されて100年経過し、スポーツ化した柔道に対し、「礼」に対してどのような意識を持っているのかを調査することを目的とした。

METHODS

ロンドン近郊の道場の視察を行い、またその道場で柔道を習っている子どもの保護者に対して「柔道の礼法」に関するアンケートを配布し回収した。

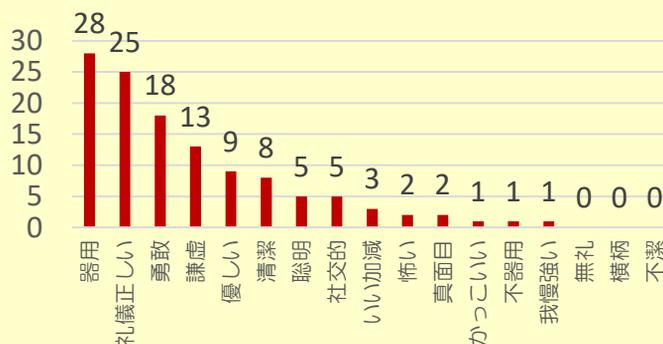
■調査期間、日程
2019年3月18日～3月23日

■視察場所
①Pinewood judo club ②Rush Judo Club

RESULTS

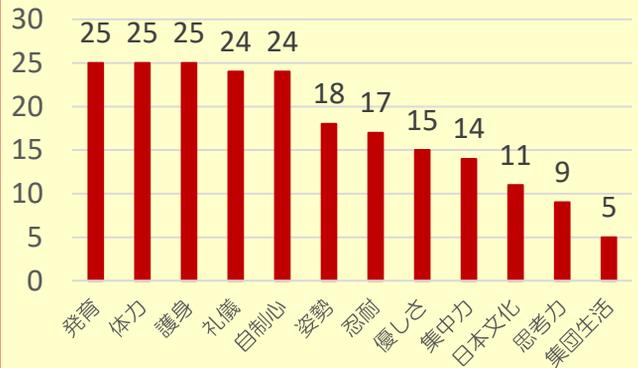
■回答者
男性：23名 女性：11名 *平均年齢47.7

■柔道についてどのようなイメージを待っているか



保護者は柔道に対して、「無礼」「不潔」のような否定的なイメージを持っている方はほとんどおらず、「器用」「礼儀正しい」「勇敢」などの肯定的なイメージを持っている。

■柔道を通じて何を学んでほしいか



柔道を習わせる理由として、「発育」「体力」「護身」「礼儀」「自制心」と続く。心と体、マナー・エチケットを柔道を通じて学ばせたいと考えている。

■柔道の指導に何を期待するか



欧州における柔道指導においては安全は担保されていることから、「技術」「精神力」「礼儀」などの指導が期待されていると考えられる。

DISCUSSION

柔道 = 礼儀 マナー&エチケット

イギリスでの調査では、他国での同様の調査と比較しても柔道に対する「礼儀」への期待が高い。他のスポーツを行いつつながら、礼儀のために柔道を習わしているという保護者もあり、イギリスにおいては、100年後の現在でも「柔道」＝「礼儀」のイメージが強いということが分かった。

CONCLUSION

わが国では、柔道に対して器用であるというイメージはほとんどなく、また、精神力を鍛えるという要素が強い。一方イギリスでは、柔道は運動神経の良いイメージと騎士道に通じるマナー&エチケットが身に付けられるというイメージがある。現在、我々が行っている甲南大学ジュニア柔道クラブでも、大学生が見本となるような振る舞いを行うことで、より良いイメージを定着させていきたい。

本調査は、2018年度甲南大学父母の会学生GPのプロジェクトに採択され助成金を獲得し調査を行った。